

# J R 総連通信

2023年9月11日 No.1674

全日本鉄道労働組合総連合会（JR総連） <http://www.jr-souren.com>

## 「伯備線・貨物輸送 関係者会議開催！」

9月7日、JR貨物労連主催「伯備線・貨物輸送 第2回関係者会議」が、米子市文化ホールにて開催されました。（第1回関係者会議は、7月13日、岡山で開催）

JR総連からは、小林政策・政治部長が参加し、JR貨物労連からは高木委員長をはじめ、辻井事務局長、野田事務局次長、JR貨物労組からは阿部副委員長と森川業務部長のほか、関西地本より津崎委員長、稲垣書記長、岡山支部より井上執行委員長が参加しました。また当該の山陽ロジ労組からは内山執行委員長、小椋副委員長、井上書記次長、米子支部谷口執行委員長が参加しました。

会議に先立ち、JR貨物米子営業所、ジェイアール貨物・西日本ロジスティクス米子営業所の協力により、参加者全員で構内視察をおこない、王子製紙米子工場の紙輸送の現状と課題、EF64形式機関車の老朽取り替えに伴う課題などについて共有しました。

会議では、第1回関係者会議以降の経過とこの間の取り組みについて、国会議員や県議会議員などへの要請行動やJR貨物会社との協議状況などについて報告をおこない、①「老朽化した機関車更新にむけて」②「新規荷主の開拓について」③「BCP・迂回輸送対策」④「2024物流クライシスと鉄道貨物輸送・地域経済の維持発展にむけて」課題認識の共有化をはかりました。

また今後のさらなる活動として、JR総連との連携強化はもとより、県への要請行動も視野に、貨物列車が走行する山陽本線が災害に見舞われ寸断された場合のバイパス的役割として、実績のある山陰本線の重要性について訴えていくことを確認し、伯備線経由の貨物列車が発着する伯耆大山駅の役割が今後ますます重要になってくることを全体で確認しました。

JR総連は、今回の要望を受け、ORS(オフレールステーション)の現状についても把握し、ローカル線の存続にむけた取り組みとあわせて、旅客・物流の両面における政策課題の実現にむけて、組合員とともに活動を強化していきます。

